

エルエイジー10液 500mL

【薬効薬理】

1. 界面活性剤の殺菌作用は、菌の外膜である細胞壁を破壊してタンパク質を変質させる作用によるものであるが、両性界面活性剤の殺菌作用は比較的強く、陽イオン・陰イオン・非イオン性界面活性剤や金属イオンが共存しても逆性石ケンのように不活化されることがない。また陽イオン界面活性剤が無効である結核菌などの抗酸菌に対しても殺菌力を示す。また、血清タンパク存在下でも殺菌力低下の影響を受けにくい。
2. 生物学的同等性
エルエイジー10液と標準製剤を任意に希釈し菌液と接触させたとき、両剤の生存菌数の経時変化には相関がみられ、生物学的同等性が認められた。

【取扱上の注意】

1. 次の医薬品等が混入すると沈殿を生ずるので注意すること。
ヨードチンキ、マーキュロクロム、硝酸銀、プロテイン銀、フェノール、過酸化水素、過マンガン酸カリウム、タンニン酸、スルホナリチル酸、スルホサリチル酸ナトリウム、重クロム酸カリウム等
2. 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合は、腐食を防止するため0.1～0.5%の割合で亜硝酸ナトリウムを溶解すること。

10%

必ず希釈してご使用ください

3. 安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%6ヵ月)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、エルエイジー10液は通常の市場の流通下において3年間安定であることが推測された。

【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部
東京都中野区中央5-1-10



202010

開封日
年 月 日

販売

外用殺菌消毒剤 2015年1月改訂(第7版)

エルエイジー 10液

LAG-10 Solution

アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩製剤

500mL

日本標準商品分類番号
872619

承認番号	(02AM)0237
薬価収載	1990年 4月
販売開始	1990年 4月
再評価結果	1982年 8月

必ず希釈してご使用ください

調剤



貯法: 遮光した気密容器
使用期限: ラベルに記載

注意
本剤は必ず希釈し、
濃度に注意して
使用してください

製造
番号
使用
期限

製造販売元
吉田製薬株式会社
埼玉県狭山市南入951

エルエイジー10液 500mL

【組成・性状】

1. 組成
本剤は、アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩(RNHCH₂CH₂NHCH₂CH₂NHCH₂COOH·HCl)として9.0～11.0%を含有する水溶液である。
添加物としてpH調整剤を含む。
2. 製剤の性状
本剤は帯黄色の粘性な液で、わずかに特異なおいがある。
比重d₂₀: 約1.01

【効能・効果】【用法・用量】

アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩として下記の濃度になるように水で希釈して、次のように使用する。

10%

必ず希釈してご使用ください

効能・効果	用法・用量
手指・皮膚の消毒	0.05～0.2%溶液(200～50倍)で約5分間洗った後、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。
手術部位(手術野)の皮膚の消毒	0.1%溶液(100倍)で約5分間洗った後、0.2%溶液(50倍)を塗布する。
手術部位(手術野)の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒	0.01～0.05%溶液(1000～200倍)を用いる。
医療機器の消毒	0.05～0.2%溶液(200～50倍)に10～15分間浸漬する。なお、結核領域において使用する場合は、0.2～0.5%溶液(50～20倍)を用いる。
手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	0.05～0.2%溶液(200～50倍)を布片で塗布・清拭するか、または噴霧する。なお、結核領域において使用する場合は、0.2～0.5%溶液(50～20倍)を用いる。

必ず希釈して
ご使用ください

エルエイジー10液 500mL

【使用上の注意】

1. 副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類\頻度	0.1～5%未満
過敏症\注	発疹、痒痒感等

- 注) 症状があらわれた場合には、使用を中止すること。
2. 臨床検査結果に及ぼす影響
本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。
3. 適用上の注意
(1) 人体

- 1) 使用時
 - A. 外用にのみ使用すること。
 - イ. 原液又は濃厚液が眼に入らないように注意すること。
入った場合には水でよく洗い流すこと。
ウ. 散布消毒の場合はマスクを着用するなど注意すること。
 - エ. 濃厚液の使用により、皮膚・粘膜の刺激症状があらわれることがあるので注意すること。
 - オ. 炎症又は易刺激性の部位に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。

10%

必ず希釈してご使用ください

- カ. 粘膜、創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと。
- 2) 調製時
深い創傷に使用する場合は希釈液としては、注射用水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。
- (2) その他
使用時
石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。
- (3) 緊急処置
1) 眼に入った場合
洗浄の際、眼珠、瞼のすみずみまで水がよく行きわたるように、洗浄水で15分以上眼を洗浄した後、直ちに適切な処置を行うこと。
2) 飲み込んだ場合
水でよく口を洗い、水又は牛乳を飲ませ(無理に吐き出させない)、直ちに適切な処置を行うこと。